



ふるさと会よりご報告



会長（高松市観光大使）
池田 克彦

年2回の発刊の会報も30号となりました。昨年は塩江の松茸狩りと瀬戸内海国立公園指定80周年にかけ、船をチャーターし本島・粟島を訪ね瀬戸大橋をくぐり波穏やかな瀬戸海のクルージングをしました。さて早速ですが、県と市の広報誌等から地元の動きと会活動をご報告します。

- ① 県27年度一般会計当初予算4606億円（前年度比+5.7%）ポイントは、「成長する香川の確立」として、香川県産業成長戦略重点プロジェクト・攻める農水産業への転換・航空ネットワークの充実利用環境改善誘客促進。「信頼・安心の香川の構築」として、交通事故ワースト上位からの脱却・安全で安心なまちづくりの推進・地震津波対策海岸堤防等整備事業・香東川総合開発事業（樺川ダム）35億円含むダム整備災害に備えたため池整備等。「笑顔で暮らせる香川の実現」として、移住定住促進事業・女性の活躍促進・瀬戸内国際芸術祭2016の推進等が予算計上されています。
- ② 市の27年度一般会計当初予算1602億円（前年度比+5.0%）重点取組事業12項目・132事業に約285億円計上。地域の未来を支える人づくり・文化芸術スポーツ振興・環境保全と地球温暖化対応・安全安心できる生活環境の向上・子ども子育て支援充実・健やかに暮らせる保健福祉医療環境づくり・都市イメージの向上とにぎわいづくり・地域を支える産業の振興等が予定されています。
- ③ 4月県議会選挙は立候補者が定員に満たせず無投票。高松市長選は現職大西秀人氏が再選。高松市議会選挙では塩江町出身の佐藤好邦氏が再選。
- ④ 3月、永年（いずれも110年以上）の歴史を持つ上西小学校、塩江小学校、安原小学校が市長、教育長臨席のもと閉校式が行われました。4月、新設の塩江小学校開校式と塩江小・中学校落成式が市長、教育長臨席のもと行われました。
- ⑤ 東京・別海ふるさと会との交流事業（秋刀魚祭り・代々木産直・忘年会等）とふるさと会役員会の会合を実施しました。

特集 ふるさと祭

ふるさと会会員 池田 克彦
安原中学校（のちに塩江中校学第1教場）の近くに西谷神社があったせいか秋のお祭りを朧ながら記憶している。夜、篝火が焚かれお神楽が



演舞された式殿を思い出す。石階段の下はずれに店の屋台が出ていた。獅子舞の踊りが何とも不思議に思え、中に入っている人は重労働だろうなと思いつつ、神輿の重いのを白装束の若い衆が担いでいる。高い旗が風に揺れ、最終日式殿から石の階段を降りると祭も終わりとなる。笛と鐘と小太鼓の調子を思い出す。小遣がなかったので見るだけのお祭りだった。そんな遙か昔を思い出してしまう。今回の30号は、ふるさとの祭を特集としました。ご寄稿戴きました方に本紙面を借りて御礼を申し上げます。

お祭りの思い出



ふるさと会会員 沢田 登美恵
香川県香川郡安原西谷は昔話に出てくるような村です。子供の頃の遊びでは、秋は山の落ち葉で滑り出し山のあそび、お祭り近くになればどこの家にも山いちごと柿で甘酒作りです。私は甘酒が幼い頃から大好きで近所のおば様達が私にご馳走してくれた甘酒が思い出です。お祭りには獅子舞！“コンコンコンチキコンチキ”と鐘を鳴らして当屋の家の庭で獅子舞を始める、子供の私は獅子の大きな口と耳が動くのが少し怖かったね。昔は青年が大勢いて獅子舞も元



気だった。八幡さんには店が出て、タニシの辛し串とか、飴屋さん、おでん屋さん、花屋さん何軒もあった。子供心にウキウキしてお祭りは楽しい！！夕方になればお神楽が始まり一番心に残ったのは、宮司さんの”シジョロ舞”ですか。これはお酒で赤くなった面を付け髪も赤く酔っ払いの踊り。客席の所まで降りて来るのが面白くて怖かった。しかし宮司さんは大変ですね。中学生の頃だと思いますが、60年に1度あるかととても珍しい“湯神楽”それは八幡さんの宮司さんの代わり後継者の儀式です。矢倉を作り矢倉の上に風呂桶を置き、矢倉の下で薪を燃やし湯が湧いたら後継の方が入ります。白装束でね。炭火になる頃、他の宮司さん達が炭火の上を走る。どんどん走るよ。熱いかな？とても不思議な貴重な儀式を見ました。今になって子供時代は良かった！自然に囲まれて春は桜、夏は藤にホテルの美しい光、私の一生の宝物です。（狭山市内在住 安原奥野出身）



祭りの思い出



ふるさと会会員 藤沢 学
小学校に上がる前から西谷神社の秋祭りは楽しみにして

いました。当時は、500円とか1000円のこずかいを貰ってオモチャを買ったり、たこ焼きを買ったりしました。小学校の高学年のころから獅子舞の稽古に誘われて、祭りの1ヶ月前ぐらい前から家の隣の屯所で鐘を叩く練習をしていました。高校時代までやっていたので7年ぐらい参加したのでしょうか？祭りが近づくと鐘を叩く音が聞こえてきて集



合の合図だったように思います。なかなか覚えられず、テープレコーダーに録音したり、メモに暗号のように書いて覚えたりしました。今も家の押入れにメモが残っていると思います。練習が終わると谷岡食堂の中華

そばを用意してくれて、それも一つの楽しみでした。今でも帰省した時は必ず食べに行きます。祭りの前日と当日は、中徳の各家を獅子舞と鐘を叩いて回りました。20軒ぐらい回ったのでしょうか？鐘を叩くより、獅子舞が大変で腕がパンパンになったのを覚えています。東京に就職してから一度も秋祭りには帰っていないので近々帰りたいと思っています。（横須賀市内在住 安原中徳出身）

ふるさとの祭り



ふるさと会会員 藤嶋 秀機
塩江を出たのが、昭和三十一年、それから六十年になろうとしています。その頃の塩江は、一年中『祭り』があつて、それを追っかけるのに「結構・忙しかつた」「楽しかつた」「なあ」と思い出しています。

当時の塩江は、「県内唯一の温泉地」で、近在では「湯治の湯」として人気も高く、花屋・塩江館・三笠屋・魚虎旅館など、立派な湯宿が揃っていて、飲食店も映画館もある商店街があつて、なかなか「雰囲気にあふれた」・「にぎやかな街」でした。



さて『祭り』ですが、温泉街では、塩江橋～花屋前《学校下・旧塩江病院下》～元湯温泉の香東川を挟んで、4月に、『桜まつり』・6月に、『蛭祭り』・8月に『盆踊り大会』・『温泉感謝まつり《湯神まつり》』、11月に『もみじ祭り』などが開催されて、村内はもちろん、県内各地から大勢の観光客が来ていました。

盆踊りは、おなじみの「一合まいた」や「樺川のたたら踊り《番傘をさして》」が盛んに踊られていた。徳島・脇町から阿波踊りの「連」もはるばる遠征して来ることもあつて、盛大なものでした。岩部の八幡神社では、4月には『市《市立祭り》』9月に『秋大祭』が行われた。春は「お神楽」があり、秋には、「神輿」の急な石段の駆け下りや、部落毎の「獅子舞」が出て、盛大に行われていました。

当時私たち子供は、特に勉強しろと言われることもあまりなく、家の手伝いを除けばまあ自由にやっていた、「今日・明日」、何をして「遊ぶ」かが関心事で、「お祭り」は私らの遊びを満足させる最大のものでした。ふだんは小遣いもなく、買い食いなどもできませんでしたが、『お祭り』には少し貰って、勇んで出かけたものでした。遊ぶことに集中できて、とにかく「わくわく」して「嬉しくて」・「むちゃくちゃ」・「楽しい」・私の、ふるさとの『お祭り』でした。

(福生市内在住 塩江樺川出身)

ふるさとの祭り



ふるさと会会員 矢田 敏雄
「塩江ふるさとの祭り」で、真っ先に思い出すのは、岩部八幡神社秋例大祭です。毎年、9月23日の「秋分の日」に行われていて、他に娯楽がほとんど

ない時代には、その日が来るのが、子供心にとっても楽しみな行事だったように思います。また、塩江には、各地域に、それぞれの獅子舞の道具を所有しており、秋例大祭が近づくとつれ、鐘の音や太鼓で獅子舞を演じて、秋例大祭を段々に盛り上げてくれました。その獅子舞の鐘の音は、今でも鮮明に覚えています。秋例大祭当日は、早朝からわくわくして落ち着かなく、親からもらったわずかな小遣いを握りしめ、30分ほど走って岩部八幡神社に向かいました。岩部八幡神社にある樹齢600年の銀杏の木をくぐり、境内に入ると、祭りの「のぼり」が、何本も、たなびき、露天がいくつも出ていて、ますます子供心を高揚させました。そこは、まるで天国にいるような雰囲気、氷アイスの店、金魚すくいの店、



おもちゃの店、さらに、バナナのたたき売り、ガマの薬売りなど、眺めているだけでもとても楽しい一日でした。そして、クライマックスは、岩部八幡神社に集まった

各組の獅子舞の競演です。地域の大人も子供も毎晩のように集まって練習した成果を演じ、見事な獅子舞でした。この獅子舞は、今も岩部八幡神社で行われているようで、子供がますます少なくなっていく状況でも、伝統が引き継がれているのは、「塩江ふるさとの祭」の行事として誇れると思います。機会があれば、いつか、岩部八幡神社の秋例大祭にまた、参加してみたいですね。もうひとつ、「塩江ふるさとの祭」として思い出すのは、「塩江温泉まつり」です。毎年、8月下旬に行われ、浴衣姿の子供や大人が皆、くつろいだ雰囲気、夏の最後を楽しみ、夜は、静かな山々にこだまする花火を眺めるのは、迫力満点でした。以前は、夏に帰省の折には、必ず塩江温泉まつりに参加して、故郷の素晴らしさを満喫したものです。塩江には、4大祭りとして、4月に「桜まつり」、6月に「ホテルまつり」、8月に「温泉まつり」、そして、11月には、「もみじまつり」があり、四季を通じていろんな祭りを楽しむことができます。これらは、塩江ふるさとの貴重な宝なので、いつまでも親から子へ、子から孫へとみんなで伝えてほしいと願っています。

(横浜市内在住 塩江本町出身)

祭りの思い出



ふるさと会会員 崎川 修
少年の頃の祭りといえば、やはり「岩部の八幡さん」のお祭りが一

た。私の家からこのお祭りに行くには、小学5年位だった私の足で往復3時間以上かかる峠越えの道のりだった。バスもあったが、そのお金さえもお祭りで使いたい、と歩いて向かった。家を出て一時間位で内場ダムに着き、その記念碑のあるところより山道へと入っていく。これより先が「星越え峠」である。当時この峠の道は細く、木々が鬱蒼としていて険しい道であったが相当な近道となっていた。この峠を越えれば



「岩部の八幡さん」はすぐ目の前。大イチョウの木とのぼりが見え、橋を渡れば太鼓や鉦の音も聞こえてくる。この日

のために貯めたお金をポケットの中で握りしめ、出店で食べるものや、くじ引きの景品に想いを募らせる。また、木になっているミカンに憧れていたことからミカンの苗も買うと決め、お祭りの光の中に飛び込んでいった。ゲームもスマホも無い時代にこれほどワクワクできるのが祭りであり、遠く険しい道中さえ遠足に行くように楽しんでた。

この時、買って帰ったミカンの苗には話の続きがある。私は、ミカンの苗を大切に育てたが、なかなか実を付けず、高校を卒業すると上京してしまった。東京に来て数年たった頃、塩江にいる親から、あの木に「ゆず」が実をつけたと聞かされ大変驚いた。あのお祭りで買った苗は、騙されて買ったのかは定かではないが「ゆず」だったのだ。あの薄暗く険しい星越え峠を、苗を抱えて帰る少年の私が見つけたならばさぞかしショックであったに違いない。

しかし、このゆずの木は、50年余もの間、毎年沢山の実を付けてくれている。今でも塩江に帰り、この「ゆず」の木を見るたびにあの日のお祭りを思い出すのである。(多摩市内在住 上西一ツ内出身)

事務局よりお知らせ

- 3月21日22日、塩江小・上西小・安原小の開校式が行われました。数多くの住民が式典に参加し名残を惜しみました。



- 4月6日(日)、新設の塩江小学校開校式と塩江小・中学校落成式が行われました。



- 6月25日、京都市内で吉村文彦先生主催 まつたけ山復活させ隊 10周年記念祝賀会が開催、塩江の松茸山復活にご指導を受けている関係から、ふるさと会から参加します。
- 6月28日(日)11時より、JR四ツ谷駅前スクワール麹町において、第10回ふるさと会総会を開催します。昭和31年浅丘ルリ子さん主演「むすめ巡礼 流れの花」のロケが塩江上西で実施されました。この映画を昔懐かしく鑑賞します。地元高松市及び塩江町からのご出席も予定されています。
- 6月29日から2泊3日で東京・別海ふるさと会との交流事業の一環として、北海道道東方面の旅行を地元塩江町有志と合同で実施予定します。
- 3月31日付、産経新聞の朝の詩に、島上亘司さんの「15の旅立ち」が掲載されました。15の時ふるさとを出た際、お袋さんが泣きながら息子を送り出す情景を詩ったものです。その15歳を題材に塩江物語第2作「生きる」を発刊しました。本書をふるさと会が流布支援します。
- 安原小学校跡利用の一環で、現在しおのえ古民館で展示されている儒学者の藤沢東咳、南岳父子の書や塩江温泉鉄道資料等を、28年度から安原文化の郷資料館として展示オープン予定です。安原文化の郷歴史保存会(会長 藤沢保さん)が実施主体。この運動にふるさと会は支援を予定します。
- 27年度もふるさと会は、塩江の新米と松茸等を特産品として生産・販売支援を実施します。塩江の新米予約票を同封します。
- 27年度個人会費の納入をお願いします。¥2,500 郵便局扱 口座記号 00150-2 口座番号 196649 加入者名(口座名) 首都圏ふるさと会(振込用紙同封) 又は、みずほ銀行橋本支店 普通口座 2091725 口座名高松・塩江ふるさと会
- 地域住民や関連団体と連携し地域づくり活動を行える方「地域おこし協力隊」隊員4人募集中。27年5月頃から1ヶ月程度。詳しくは高松市市民政策局政策課迄(電話 087-839-2135)

編集後記

5月は五月晴れと鯉のぼりです。風に吹かれた鯉の様にゆったりと人生を泳ぎたいですね。次号は今秋を予定します。(編集人 深野裕美子)